

本宮市教育委員会

# R7本宮市授業改善プラン進捗状況報告

令和8年2月

一人一台端末と電子黒板の配備を経て、本宮市の教育は「使う」段階から「深める」段階へと移行しつつあります。また、市学習アドバイザーの指導・助言によるパイロット校の実践が市内全域へと波及し、子どもたちの主体的な学びと、教職員の働き方改革（DX）が同時に進行しています。



## 本宮市授業改善プランの概要

本宮市では、今年度から、小学校7校、中学校3校、合計10校が「市授業改善プラン」を実施している。本プランは、一人一台端末とクラウドの環境を活用し、「自分の可能性を広げ、よりよい未来を創造しようとする子ども」を育むことを目的としている。

主な内容は、

教師が「話す」授業から「みる」「きく」「つなぐ」授業への転換を図ること、  
一人一台端末・クラウド環境を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
を一体的に充実させることである。

本市では、授業の基本的な流れとして「学び出す（つかむ）」・「**学び合う（活動する）**」・「**学びとる（ふり返る）**」の三段階を意識した授業づくりに取り組んでいる。

# 本宮市学びのサイクル

本宮市の目指す子ども像：

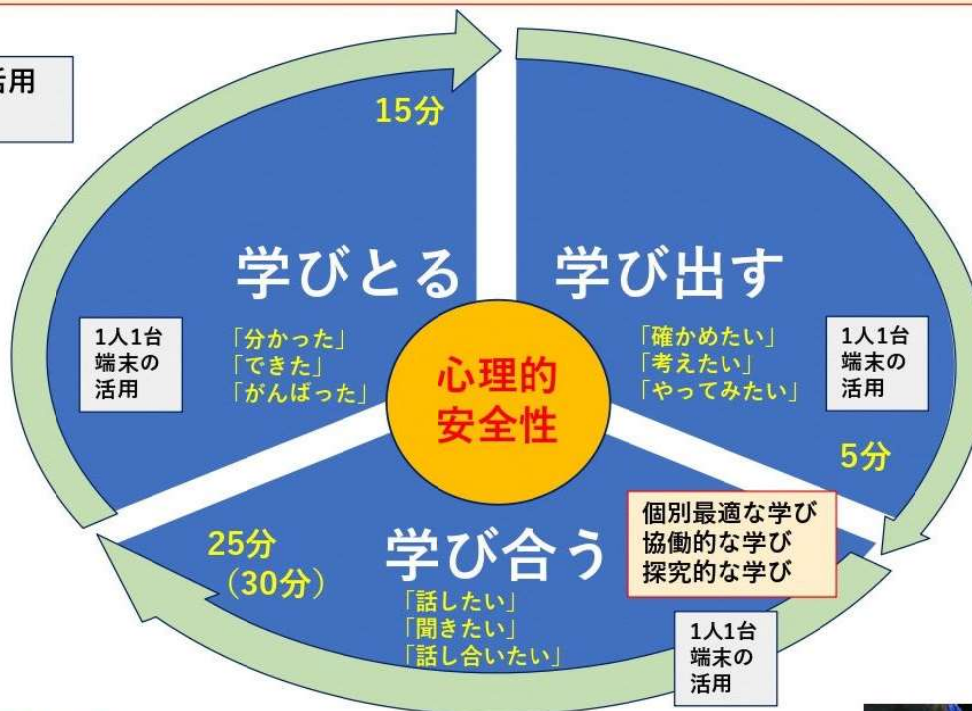
本宮市教育委員会

「自分の可能性を広げ、よりよい未来を創造しようとする子ども」

教師が「話す」授業から、教師が「みる」「きく」「つなぐ」授業へ

1人1台端末の日常的・効果的な活用  
「Growing Map」

**学びとる（ふり返る）**  
すべての子どもが今日の授業で「自分は何が分かり、何ができるようになったのか」を実感できる授業



**学び出す（つかむ）**  
すべての子どもが課題解決の見通しをもったり、解決方法を選択したりして、自ら動き出そうとする授業



**学び合う（活動する）**  
すべての子どもが友達の話に耳を傾け、自分の考えを確かめたり、新たにしたり、磨き上げたりする授業



## パイロット校：岩根小 日常的な文房具としてのICT活用

### 授業導入時のウォーミングアップ

2年生や特別支援学級において、漢字練習や九九のフラッシュカードとして電子黒板を活用。リズムよく反復練習を行うことで、基礎学力の定着を図る。



### ワークシートの即時共有

電子黒板を使って友だちのワークシートを投影し、自分の考えを他の生徒に伝える活動が定着している。



## パイロット校：岩根小 みんなの考えが教室の「知」になる（思考の可視化）



### 機動的なヒント提示（4年算数）

モニタリング画面を見ながらヒントを提示。「個で学ぶ子」と「ペアで学ぶ子」が混在する、個別最適な学びを実現。



### モニタリングとリアルタイム共有

自分の考えを端末内にあるシートにまとめ、全員の考えを一覧表示。教師は手元の端末や黒板で進捗を把握し、必要な子にヒントを与える。

## 【市内の波及：小学校】 端末の活用による主体的な課題解決



### 音声検索による自力解決（本宮小・情緒学級）

「折り方がわからない」課題に対し、自分の判断でYouTubeを起動。文字入力が未習熟でも「音声入力」を活用して検索し、動画を見て解決する。



### 1年生からの日常利用（白岩小）

入学からわずか2ヶ月で、生活科や学級活動において端末を操作。自分たちで考えを見せ合いながら対話する姿が自然に見られる。

## 【市内の波及：中学校】 自律的な学習者への成長



### 協働のコーディネート（本宮二中）

すぐに立ち歩くのではなく、まずは挙手で同じ考えの生徒を確認。その後、集まって正誤を確認するなど、規律ある協働が生まれている。



### 情報の記録と自己管理（本宮一中）

生徒が自らの判断で、板書を端末で撮影し、復習用に保存するなど、端末が「使いたい時にすぐに使える」標準装備として定着。

## 「他者参照」で学びの質を高める（比較・検討の力）



### 理科：観察記録の比較（白沢中）

他グループの画像を電子黒板で参照し、自分たちの結果と比較して正確な理解へと修正する。



複数のワークシートを瞬時に並べて比較し、複数の考え方を並べて比較することで、多様な解法をクラス全体で共有する。

## 客観的な「振り返り」の定着（動画再生による「メタ認知」の促進）



**音楽：客観的な「振り返り」（本宮まゆみ小）**

リズム練習や体操をペアで録画し合い、客観的に動きや音を確認して修正する。

**英語：客観的な「振り返り」（白沢中）**

自分の発音を録画・音声入力して正確さを判定。映像や音声を確認し、生徒同士による即時フィードバックを行う。

## 「共に協力」から「共に働く」へ（協同から協働へ）

### 目指すのは「対話と合意」

・これまでのグループ学習は、単に助け合うだけの「協力」になりがちでした。

・本市が目指すのは、互いの考えを対話によって出し合い、議論し、新しい解を想像したり、合意形成を図ったりする「共に働く」段階です。



## 「教える」から「つなぐ」へ（教師の役割転換）

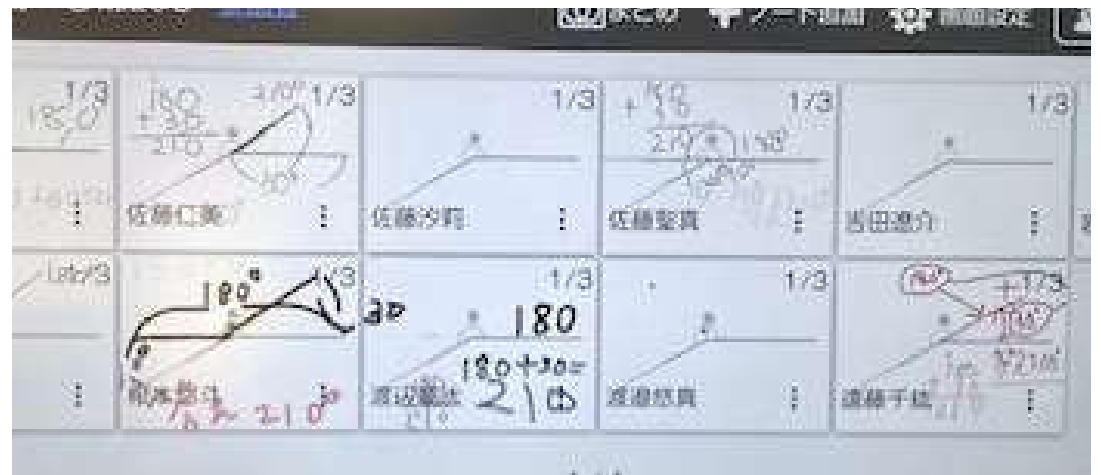
### Teaching 「教える」

→ Facilitation 「つなぐ」へ

- ・ 黒板の前から教えるだけでなく、子どもたちの横へ。同じ目線で対話する。



モニタリング画面で  
つまずきや特徴的な  
考えを持つ子を特定  
し、意図的に指名を  
行う。



## 自走する教職員集団へ：市授業改善プランに係る授業研究会 R7.12.12 岩根小



パイロット校（岩根小）における工夫点：

1. **4つの分科会それぞれの教室に3つずつ電子黒板を設置し、小グループで協議を行った。**
2. コーディネーターも岩根小の教員が行い、全職員で授業づくりを行ってきたことが伝わってきた。
3. 記録は**電子ホワイトボードとボイスメモ**を活用した。
4. ボイスメモは、後ほど**生成AIで要約し、参加者と共有**した。

※岩根小の研修に対する熱意が、市内の他の学校の教職員にも広がった瞬間であった。

## 成果のまとめ：本市が到達しつつある「新しい当たり前」

### 文房具としてのICT活用



・端末は特別な道具ではなく、**日常的に使う「文房具」**になりつつある。

### 思考の可視化



・モニタリングや他者参照により、**自分や友達の考えが可視化**され、比較・検討する姿が見られるようになった。

### 教職員研修のDX



・**生成AIとICT**を活用し、教職員自身が効率的かつ協働的に学ぶ**「自走する教職員集団」**になりつつある。

## 今後の課題と展望

### 協働的な学びの促進

・本市が目指すのは、互いの考えを**対話**によって出し合い、議論し、新しい解を想像したり、比較検討したり、**合意形成**を図ったりする「共に働く」段階である。その際に、**協働的な学びにおいて、一人一台端末を積極的に活用していきたい**と考える。

そのためにも、市内の教職員への継続的な授業での活用のための研修が必要だと考える。

今後も市教委が各学校の伴走者として、授業改善を推進していきたい。

